

地域学校協働活動開始により期待される効果

○学校にとっては…

先生が異動になった場合でも、推進員を頼りにすることができ、地域学校協働活動を円滑に進めることができるとともに、持続可能な学校支援体制が担保できます。また、地域の伝統文化の継承、職場・職業体験等に取り組みやすくなり、地域資源を活かした人づくりや地域づくりに繋がる活動ができるようになります。

○子どもにとっては…

専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りとなり、地域の担い手としての自覚が高まります。また、多様な経験を積むことで学習意欲が喚起され、自ら課題を解決しようとする資質や能力が育まれます。

○地域にとっては…

地域住民等が自らの経験や知識を子どもたちの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会や場がつけられます。また、地域の子どもと顔見知りになるとともに、地域住民同士も顔見知りになり、学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たなコミュニティがつけられます。

**地域学校協働活動を進めるためには、地域住民の皆様、各種団体、企業等の協力が不可欠です！
みなさまの協力をお願いします！！**

令和5年度高千穂町立小・中学校の 全国学力・学習状況調査結果

4月18日に小学6年生と中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本町の子どもたちの結果をお知らせします。

学力調査の結果

[参加状況] 小学6年生89人、中学3年生83人

	小学6年生	中学3年生
国語	県平均と同じで、全国平均をやや下回っています。 「書くこと」の領域で全国・県平均を上回っていますが、「話すこと・聞くこと」についての力を習得することが求められます。	県平均を上回り、全国平均をやや下回っています。 「読むこと」の領域においてはよい成績となっていますが、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」において全国平均を下回っています。
算数 数学	全国・県平均を下回っています。 「数と計算」と「データの活用」が全国平均をやや下回っている程度ですが、それ以外の内容は全国平均を大きく下回っています。	県平均を上回り、全国平均を下回っています。 「数と式」で全国・県平均を上回っていますが、特に「図形」と「関数」の力を習得することは大きな課題です。
英語		県平均、全国平均を下回っています。 「聞くこと」と「読むこと」の領域が全国・県平均をやや下回っており、「書くこと」は大きく全国・県平均を下回っています。

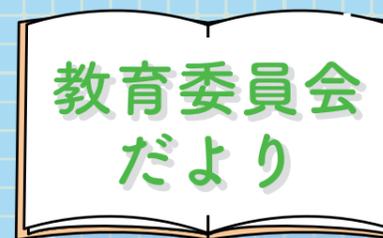
学習状況調査の結果

	質問事項	小学6年生 (%)		中学3年生 (%)	
		本町	全国	本町	全国
生活	朝食を毎日たべている。	86.4	83.7	89.0	78.6
	学校に行くのは楽しいと思う。	89.8	85.3	84.1	81.8
	友達関係に満足している。	73.9	63.2	56.1	55.3
学習	平日、家で2時間勉強をしている(塾を含む)。	31.9	25.6	19.5	33.7
	平日、学校以外で30分以上読書をしている。	36.4	37.3	22.0	28.4

本年度の調査では、例年の国語、算数・数学と中学校の英語を加えた教科が実施されました。

本町の小学6年生の学力調査は、県平均とほぼ同じ結果で、全国平均をやや下回りました。中学3年生は、3教科とも全国平均を下回りました。今後は、基礎・基本の定着や読解力の向上に向けた取組が課題となります。

学習状況調査の結果を見ますと、「平日、家で2時間以上勉強をしている」中学生の割合が、昨年度に引続き、小学6年生よりも少ないことがわかりました。本町の学力向上の課題のひとつとして、「読解力の向上」があげられます。ご家庭におかれましても、SNSやゲーム使用に関する「きまりづくり」についての話し合いをもち、読書等に取り組む環境づくりへのご協力をよろしくお願いいたします。



未来へのパスポート

～今月のテーマ～

学校と地域の連携協働で子どもたちを育む
「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」

今年3月号の教育委員会だよりでも紹介しましたが、高千穂町では、今年度より「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の取り組みを開始しました。

今回は、この「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」について、さらに詳しく紹介します！

コミュニティ・スクールとは？

「コミュニティ・スクール」とは、保護者代表、地域住民代表、地域学校協働活動推進員、校長、教頭、地域連携担当教員など、約10名程度の委員で構成する「学校運営協議会」を設置した学校のことです。学校運営に地域の声を生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる仕組みのことです。

学校側からは、「こんな子供を育てたい」という目的や目標（目指す児童生徒像）や、学校運営において、地域に協力してもらいたいこと（学校の困りごと）や地域と一緒にしたいことなどを提示し、また、地域側からは、地域活性化のため、学校（児童生徒）に協力してもらいたいことや学校と一緒にしたいことなどを提示し、しっかり話し合い（熟議）をして、「学校と地域と目標やビジョン」を共有します。

令和5年度は、高千穂小学校と高千穂中学校で導入しました。

その他の小中学校は、令和6年度からコミュニティ・スクールになる計画です。

「地域学校協働活動」とは？

「地域学校協働活動」とは、幅広い地域住民等の協力・参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことをいいます。

高千穂町では、このような活動は以前からどの学校でも行われていましたが、今年度から「高千穂町地域学校本部」を設置し、この活動を推進する「地域学校協働活動推進員」を7名配置しました。

地域学校協働活動推進員には、学校と家庭・地域などのつなぎ役として、“地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案” “学校や地域住民、企業・団体等の関係者との連絡・調整” “地域ボランティアの募集・確保” などの役割を担います。

本町の地域学校協働活動推進員	
氏名	担当
田尻隆介さん	総括
下堂蘭ゆりさん	高千穂小
甲斐寛崇さん	押方小
富高康雄さん	岩戸小
須藤幸代さん	田原小
大賀加緒理さん	上野小中
野尻泰弘さん	高千穂中

地域学校協働活動のイメージ

